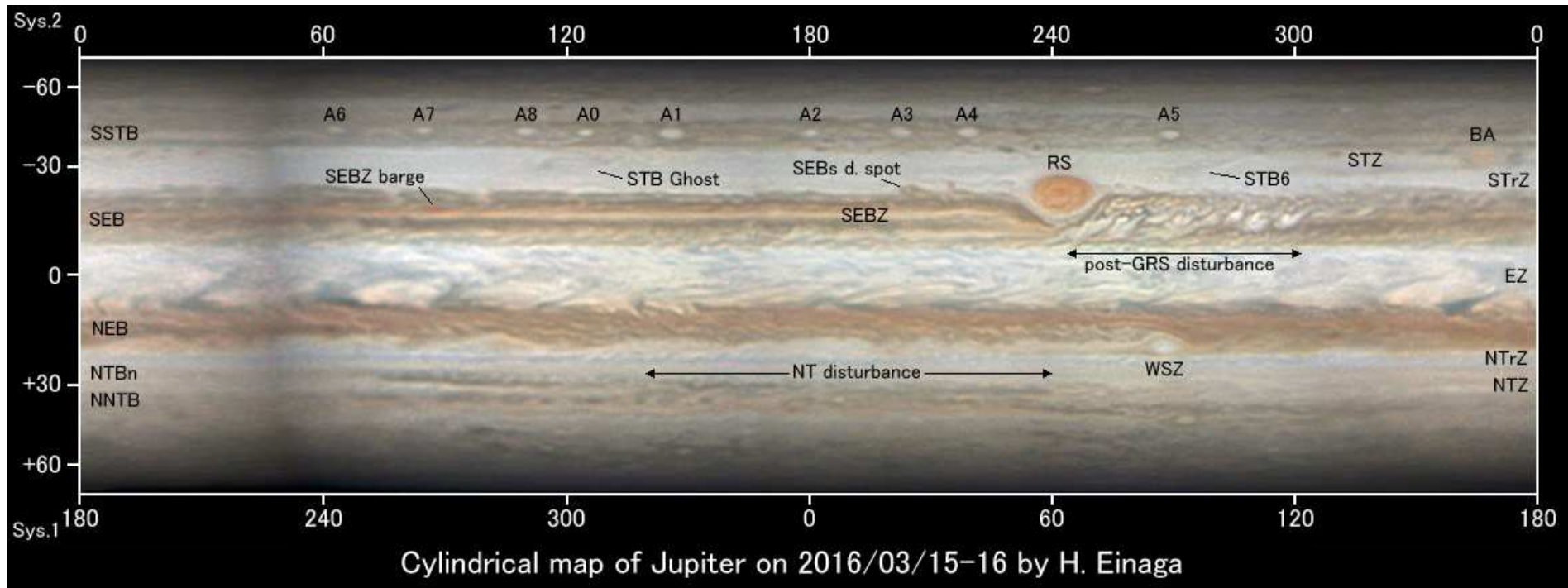


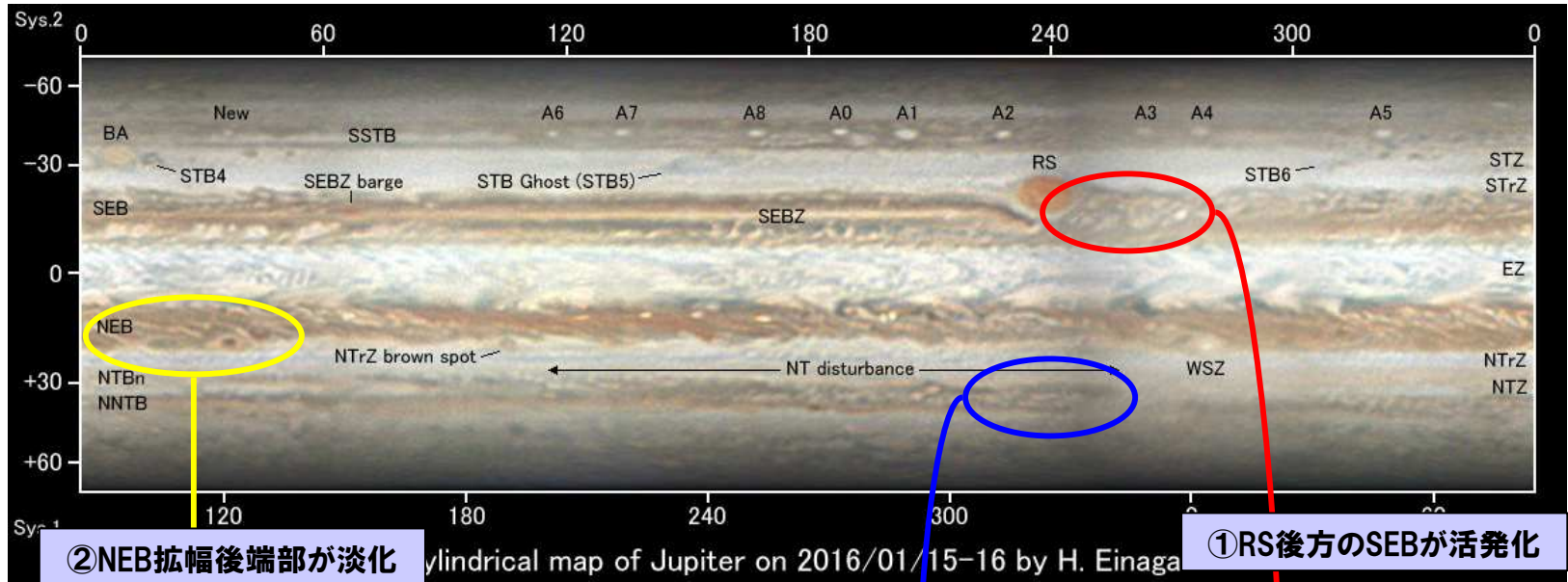
最新の木星面展開図

3/15~3/16 永長英夫氏撮像・作成

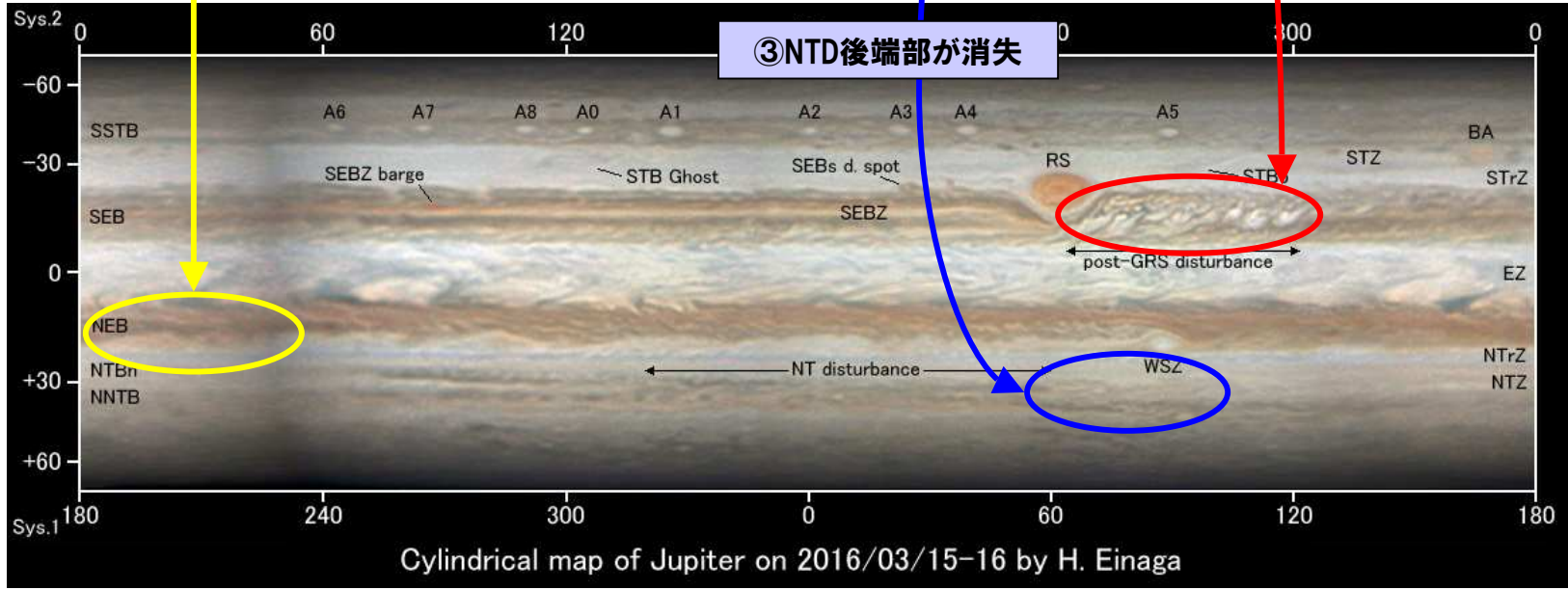


前回例会からの変化

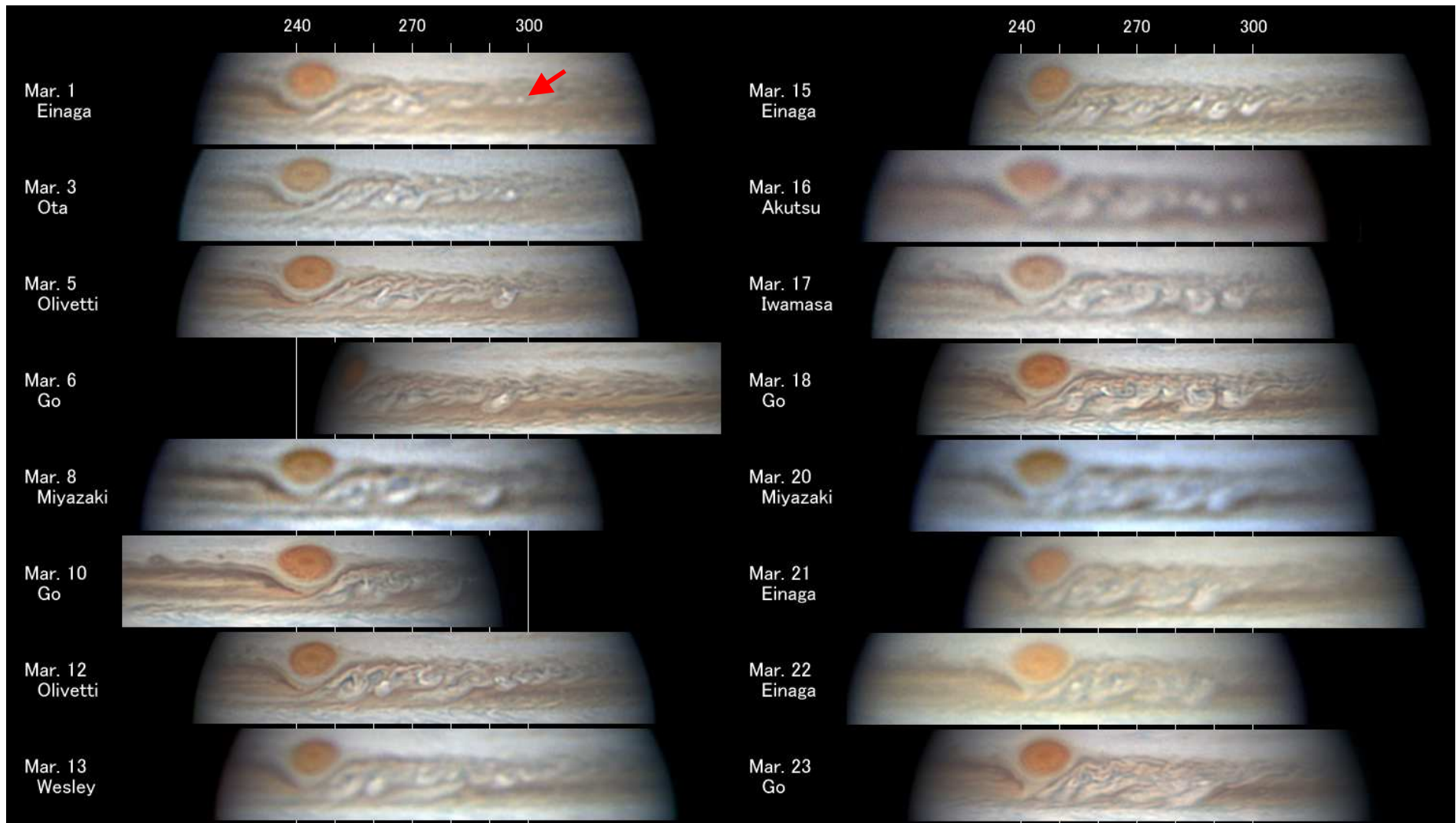
1月



3月



大赤斑後方のSEBが活発化



- 3/1に $\lambda=300^\circ$ 付近で白斑出現。前進しながら乱れた白雲に発達。
- 同じ経度から第2波の白斑が2個出現。RS後方の活動域が $50\sim 60^\circ$ に拡大。
- 3/26に第3波となる白斑が $\lambda=295^\circ$ 付近に出現。

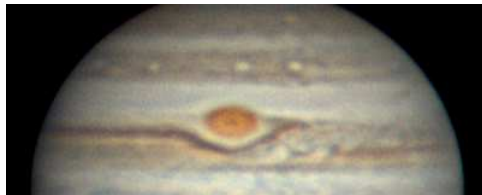
post-GRS disturbance or mid-SEB outbreak ?

2008年4月



post-GRS disturbance

mid-SEB outbreak

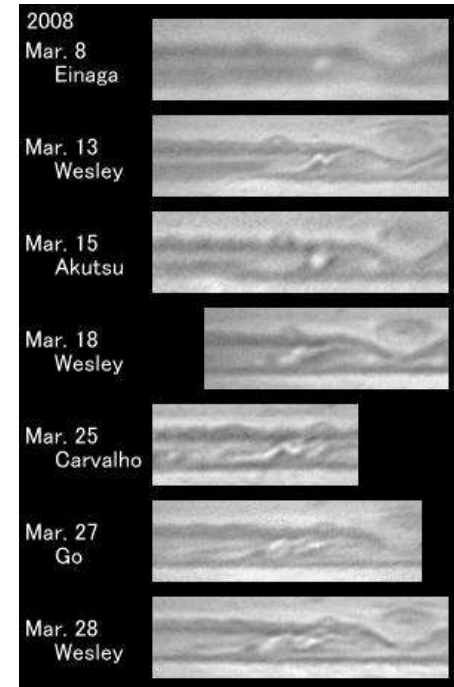


- 大赤斑後方に常に存在する定常的な活動領域
- 白雲は最後方で発生し、前方北へ移動、大赤斑後部で消失
- 発生源から繰り返し、白雲が供給される
- 発生源はII系に対してほとんど動かない
- 時々、発生源が後方にジャンプして再活性化する
- 今シーズンは非常に不活発だった

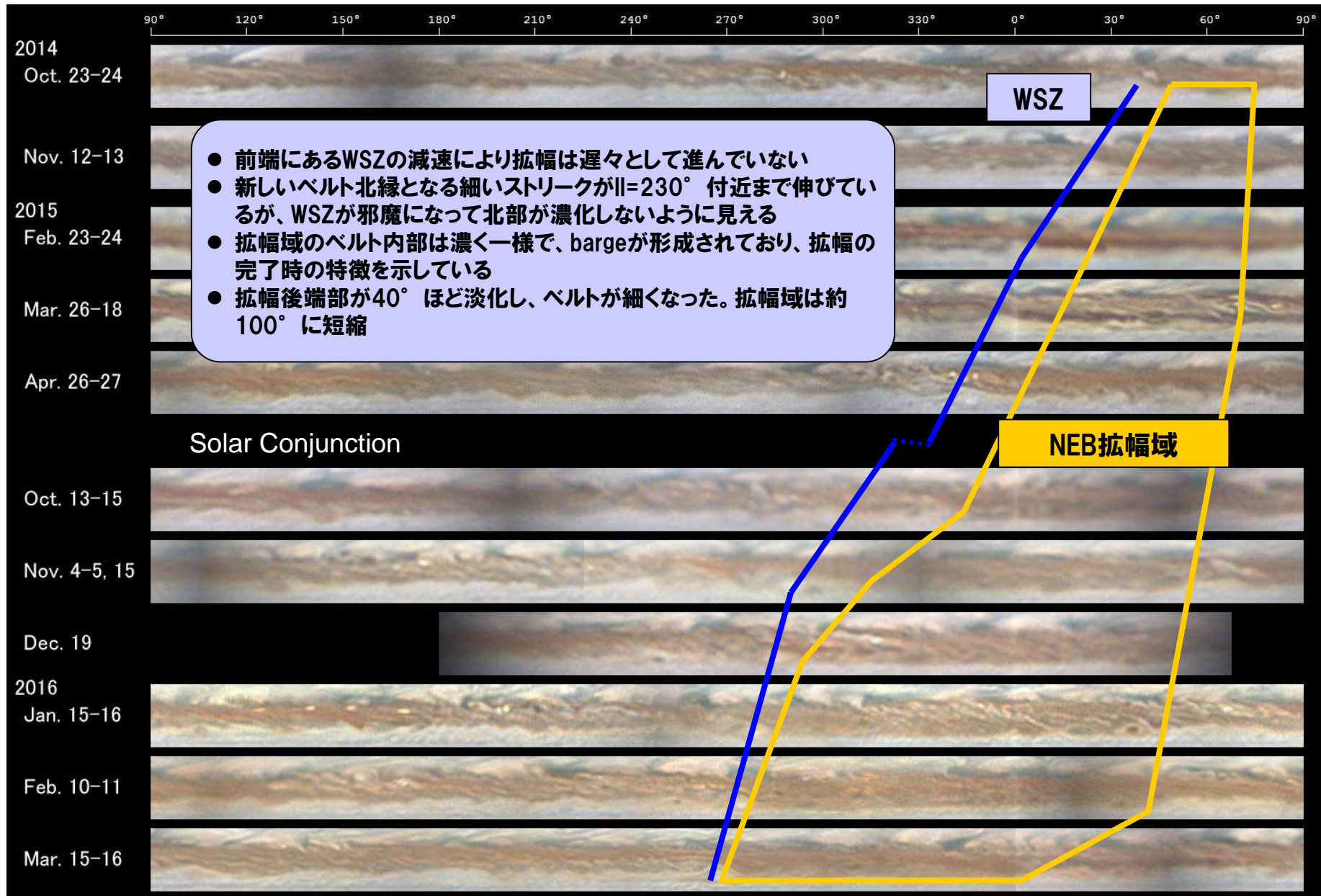
- 大赤斑の前方または離れた場所で起こる突発的な白雲活動
- SEBが濃化安定している時期に起こる
- 発生源から白斑や白雲が繰り返し供給され、前方のSEBに乱れた領域を形成する
- 発生源はII系に対してほとんど動かない
- 活動は数ヶ月継続し、発生源から白雲の供給が止まると拡散消失する

- 今回の活動は大赤斑後方60°で発生、どちらの活動とも解釈可能
- 最初の白斑は元々の活動域から伸びる白雲の尾の中で発生、活動域は一体となって区別できない。
→ post-GRS disturbanceの再活発化
- 過去に同じような場所で起こった活動がmid-SEB outbreakと分類されてことがある。

Rogersの判断を待つことにしましょう



NEB拡幅の進行状況



永続白斑BAとSTB



BAとSTB4(DS3)

- BAは薄茶色の濁った白斑。2月以降、さらに減速(-0.36° / day)。
- STB4はまもなく消失する予定だが、前方のSTBnを濃化させ、後方に暗斑を放出するなど活動的。

STB Ghost (STB5→DS4)

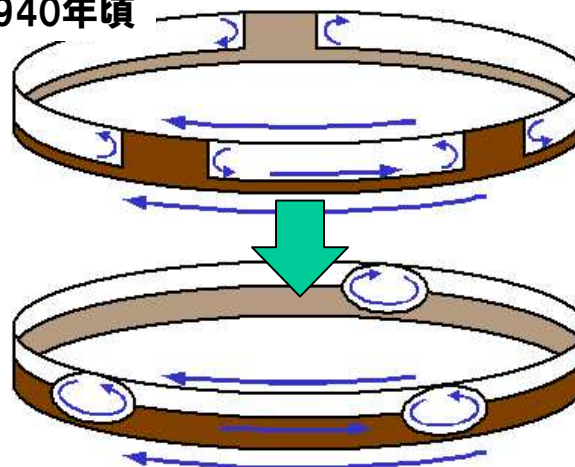
- ベルト・セグメントの輪郭が明瞭。いずれベルト化すると思われる。
- 来年秋ごろにBAに衝突し、STB4と同じような活動を見せるだろう。

STB6→DS5 (STB Spectre)

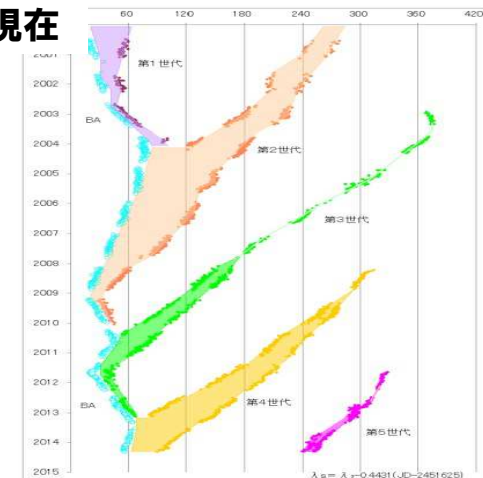
- 顕著な小暗斑からSTB Ghostのようなフィラメント模様に変化。
- しばらくはフィラメントとして見られるだろう。

- STBはベルト・セグメント(断片)を3つ持つとする傾向がある
- 75年前はそのようなセグメントから永続白斑が3つ形成された
- 現在はBAに衝突したセグメントは壊れてしまう。BAがSTBの発達を邪魔している

1940年頃

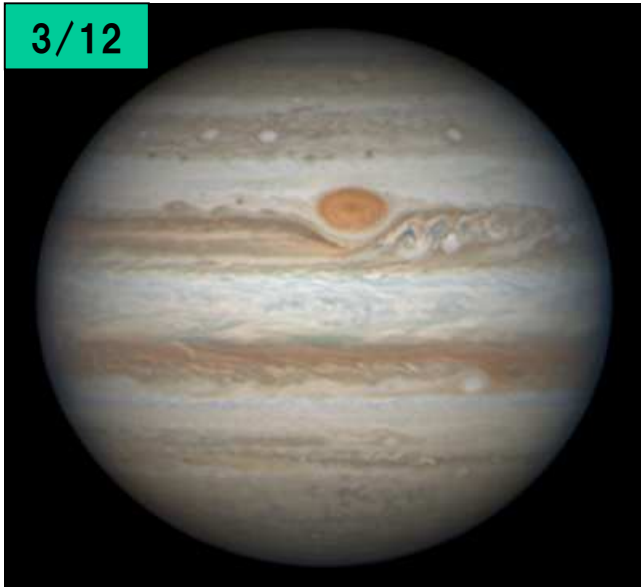


現在



大赤斑とその周辺

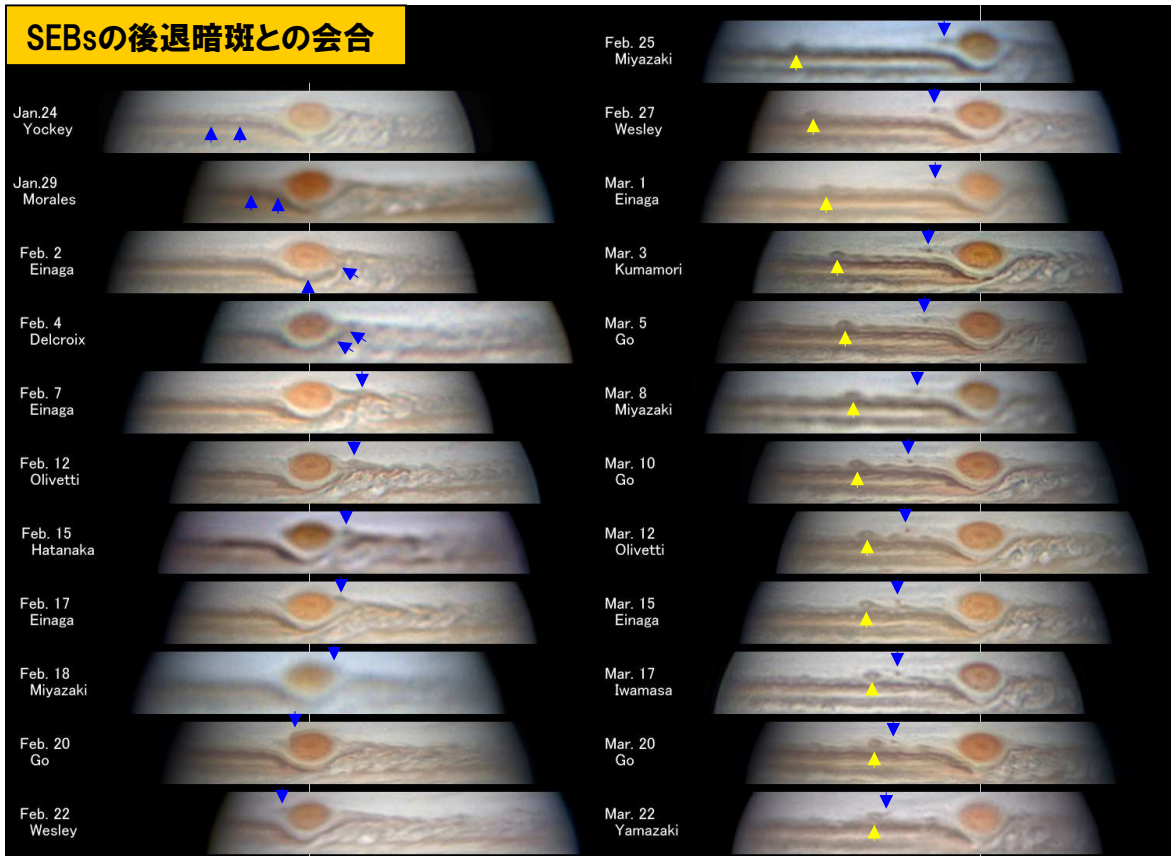
3/12



- RS内部に微細な模様
- Rotationの周期は 3.73 ± 0.26 day (BAAのレポートより)

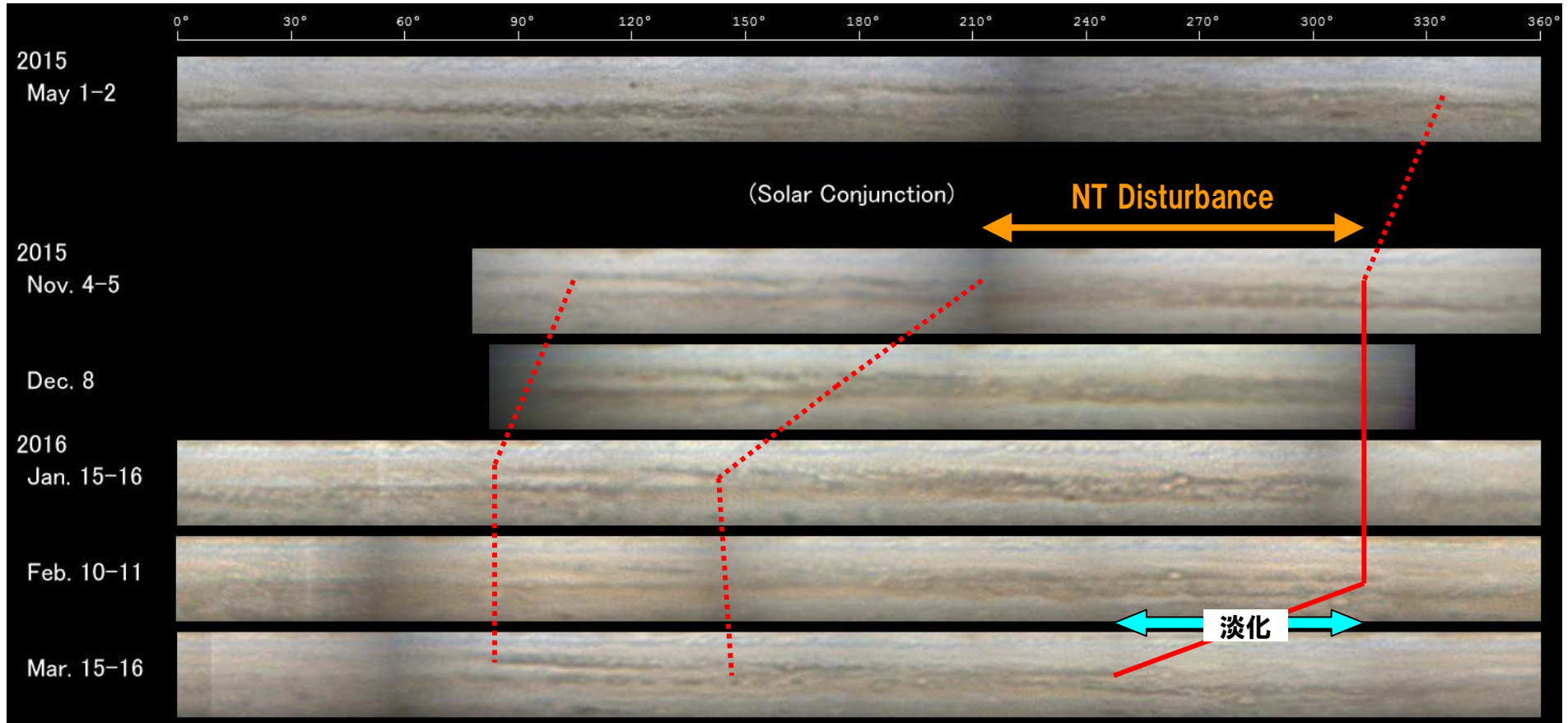
- RSは相変わらず赤みが強く異例に顕著な状況が続いている。
- $l=243^\circ$ 、3月に約 2° 後退したように見えるが、90日振動の一部か位相効果によるのかは不明。
- 2月にSEBsの後退暗斑2個が会合し、RSを回ってSTrZの小暗斑となったが、RS本体にはまったく影響なし。
- 現在、前方から大きなSEBsの暗斑が接近中だが、RSに近づくにつれて南へシフトして減速。RSと会合するかは不明。

SEBsの後退暗斑との会合



NT Disturbanceの状況

$$\lambda = \lambda_2 + 0.75 (\text{JD} - 2457456)$$

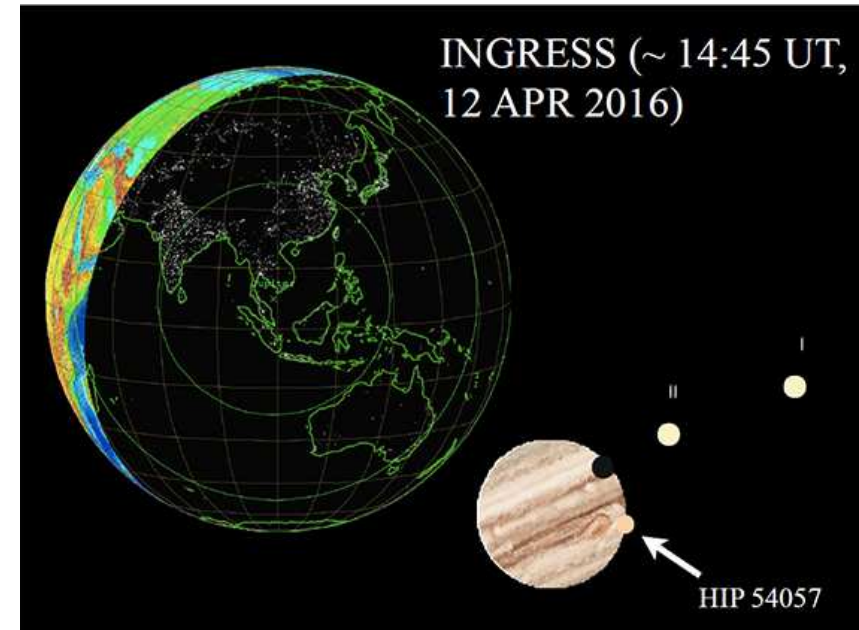


- NT Disturbance(NTD)は、NTZが暗化してNTBnからNNTBまでが融合した暗部。現在のNTDは2013年から存続。
- 以前よりも明るくなり、NTBn(?)とNNTBを分離できるようになった。
- 後端部が60°ほど消失し、短くなった。
- 体系IIに対して+0.75°/dayで後退中。

(予告)木星とガニメデによる恒星(HIP54057)の掩蔽

4月12日

- 木星がてんびん座の7.3等星(HIP54057)を掩蔽
- 潜入は23時45分(JST)
- アジアとオーストラリアの広い範囲で見られる
- 出現は2時45分(JST)だが、木星高度が低くなり観測は無理と思われる。
- 経度は $\text{II}=120^\circ$ 、大赤斑は見えません。右の絵はウソです。



4月13日

- 同じ星をガニメデが掩蔽。
- 潜入は20時57分(JST)頃で、4分程度継続。
- 日本周辺の東アジアでのみ見られる激レアな現象！

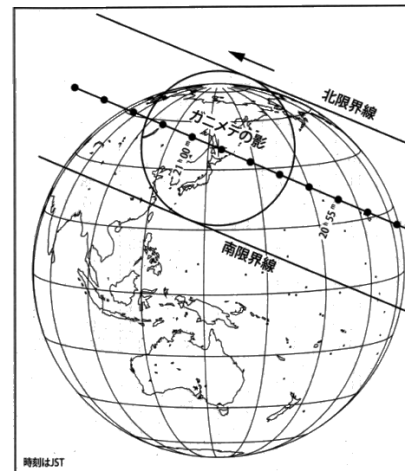


図3 2016年4月13日ガニメデの掩蔽帯

望遠鏡では倒立像になるので、木星本体の右側で起こります。お間違えのないように！

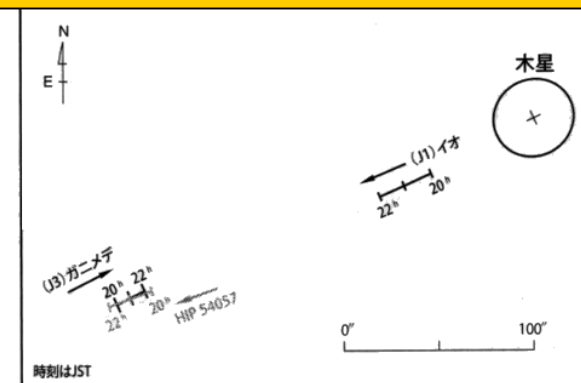


図2 2016年4月13日(水)ガニメデによる7.3等星(HIP 54057)の掩蔽